



奉仕を通じて 平和を

Peace Through Service



国際ロータリー第2660地区 ■ 吹田江坂ロータリークラブ

SUITA ESAKA ROTARY CLUB

CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日 / 1990.2.27
事務所 / 〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番101号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場 / 新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日 / 毎週火曜日 12:30~13:30
会長:寺井正昭 幹事:成松重人 会報委員長:田中弘

2012年9月18日 第1060回例会(第1059号)

本日の例会

今週の歌 「 R-O-T-A-R-Y 」

クラブアッセンブリー

「 公式訪問に向けて 」

司会 成松重人 幹事

前回〔9月11日〕例会記録

来客

矢野克吉君

(R I 第2660地区第2組ガバナー補佐・茨木東)

山岡英次郎君(吹田西)

会長の時間

寺井会長

本日は、国際ロータリー第2660地区IM第2組のガバナー補佐 矢野克吉様(茨木東RC)がクラブ訪問の一環としておいでいただいております。

そこで本日はガバナー補佐制度についてお話をさせていただきます。

ガバナー補佐とは文字通り、激務となるガバナーを補佐する責任を負うために、ガバナーから任命される役職です。1996年2月のR I 理事会で、増大し続けるガバナーの責務を軽減するため『地区リーダーシップ・プラン(D L P)』が承認されました。そして、このD L Pを採択した地区は、複数のガバナー補佐を任命することになりました。R I 第2660地区ではこのD L Pを2002~03年度に導入し、

出席報告

新井委員長

【9月11日】

在籍会員 37名(内出席規定適用免除者 10名)
出席会員 29名(内出席規定適用免除者 6名)

ホームクラブ出席率 87.88%

8月21日のMUを含む出席率 84.85%

次回例会のお知らせ(10月2日)

卓話 「 米山月間に因んで 」

水谷善博 米山奨学委員長

その年度よりガバナー補佐制度を導入することになりました。当地区では8つのIMグループに分かれていますので、そのグループ毎に1名のガバナー補佐が任命されています。R I では1人のガバナー補佐が担当するクラブは4~8クラブが妥当と判断しておりますが、当IM2組は12クラブあります。ガバナー補佐はその12クラブを年4回訪問するよう要請されており、大変きつい仕事になります。また、当IM2組ではガバナー補佐の選出は輪番制となっており、IMのホストクラブよりガバナー補佐エレクトを選出することになっております。

当クラブでは2007~08年に芳賀パスト会長がガバナー補佐をされましたので、次に当クラブに回ってきますのは7年後の2019~20年度になります。ガバナー補佐になるための資格条件はクラブに3年以上在籍し、クラブ会長を全期務めたもの又はその予定者というのが最低条件となっております。当クラブにも沢山の資格者がおられますので、希望される方はぼちぼち準備をされてはどうでしょうか…。

関西大学R A C 例会出席担当

Cグループ 八橋、赤尾、芳賀、今村、岸本、
西本、庄瀬各会員

9月24日(月)

会場: 関西大学千里山キャンパス
中央体育館 図書資料室

時間: 19:00~20:00

ニコニコ箱

東 会 員 前々回、前回欠席のおわび。

本日分 3,000円

累 計 350,000円

ローターアクト委員会 金 馬 委員長

「2012年秋の上級ライラ」開催のご案内

第2660地区青少年活動の一環として、当地区青少年活動委員会が主管／ホストクラブとして開催することになりましたのでご案内いたします。

初級ライラを修了のクラブ会員のご子息、ご子女、お孫さん、またご推薦の青少年等に上級ライラへの参加のご案内と共にご推薦を頂けますようお願い申し上げます。

日 時：10月6日(土)～10月8日(月・祝)

会 場：六甲山Y M C A

参加対象者：初級ライラ修了者

しかし、しばらくして隣国との戦争が始まって、丁壯な若者は皆戦争に駆り出されて、殆ど死んでしまったが、足の悪い息子は徴兵を免れ禍をのがれることができた。

このように禍が幸いとなり、又幸いが禍となるなど人の世は禍福が糾える縄のごとく吉凶が定まりがなく、幸不幸も変転しやすい。いたずらに一喜一憂してもはじまらないという警えです。

卓 話

「人間万事塞翁が馬」(漢の淮南子)

芳賀洋会員



人生は何事も塞翁が馬といわれる。禍が福となり、福が禍となって定めがないという故事です。

中国北辺の国境の要塞の近くに住む老人の大切な馬が或る時逃げたので皆がこれを悲しんだ。しかししばらくしてその馬が駿馬を連れて帰ってきた、これを見て幸運を祝った。

ところがその老人の息子が、この馬に乗っていた時落馬して足の骨を折る大けがをしてしまい、この不運を皆が悲しんだ。

